

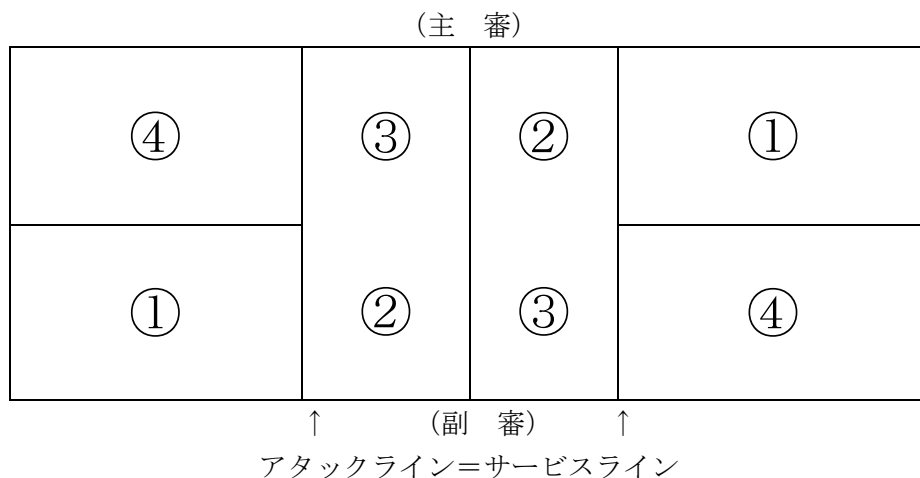
さくらミニバレーボールについて

佐倉市スポーツ推進委員連絡協議会

《概要》

「さくらミニバレーボール」は、佐倉市スポーツ推進委員連絡協議会が「ミニバレーボール」をアレンジして考案した競技です。ビニールボールを使用し、4人で構成されたチームが3回以上5回以内に相手コートに返しバレーボールの要領で相手チームと打ち合う競技です。

バドミントンコート外側のライン



《コートと用具》

- ①コート
 - ・バドミントンダブルス用コートを使用。
- ②ネット
 - ・バドミントンまたはソフトバレーボール用ネットを使用。
 - ・高さは2mとする。
- ③ボール
 - ・ビニール製（直径25cm、重さ50g）ボールを使用。

《競技方法》

- ①チーム
 - ・1チーム4名以上7名以内で構成する。
 - ・競技者は、男女混合チームの時は男性2名以内、女子チームは女性4名とする。
 - ・また、ファミリーチームは中学生以下の子ども2名以上、大人1名以上とする。
 - ・競技は、必ず4名で行い、4名が揃わなくなった時点でゲームの途中であっても失格とする。
- ②ゲーム
 - ・1セット15点先取、2セットマッチ、ラリーポイント制とする。（1-1の時は得失点差で勝敗を決する。参加チーム数により変更の場合もある。）
- ③サーブ
 - ・サーブは、後衛①の競技者がサービスラインより後方から打つ。
 - ・サーブは、1本としアンダーサーブ（腰から下）で打つ。
 - ・なお、ファミリーの部の子ども（小学生以下）のみ2本とし、

アンダーサーブ（肩から下）で打つ。

- ・サーブしたボールがネットに振れた場合は、サービスミスとなり相手の得点となる。
 - ・ファミリーの部の子どもは、2本ともボールがネットに振れた場合、同様にサービスミスとなり相手の得点となる。
- ④競技者の位置
- ・プレー開始の時の競技者の位置は、前衛③②、後衛①④とし、サーブが打たれプレーが開始されるまでは、このポジションを崩してはいけない。
- ⑤ローテーション
- ・サーブ権を得たときは、直ちに時計回りの方向に1つだけポジションを移動する。
- ⑥パス
- ・打球は3回以上5回以内で相手コートに返す。
 - ・打ったボールがネットに当たった場合、同一の競技者は1回のみ続けて打つことができる。この場合の打数は、2打と数え、打数は5回以内でなければならない。
 - ・2名同時にボールに触れた場合は、1回とみなし、そのままプレーできる。
 - ・腰より上であればどこで打っても構わない。
- ⑦アタック
- ・前衛競技者は、どの位置からもアタックできる。ただし、後衛競技者は前衛エリアでアタックラインを踏み越えてネットより上のボールを返球してはならない。
- ⑧タイムアウト
- ・タイムアウトは、1セットに1回30秒、チームキャプテンによりとることができる。
- ⑨選手交代
- ⑩反則
- ・チームがローテーションを誤ってサーブを行ったとき。
 - ・サーブが打たれた瞬間に両チームの競技者が正しいポジションに位置していないとき。
 - ・競技者がプレー中にネット又はポールに触れたとき。
 - ・競技者がプレー中に相手コートのボールに触ったとき。
 - ・同一競技者が2度続けてボールに触れたとき。
 - ・ボールを握ったり、身体の一部で静止したとき。
 - ・ボールが腰より下に当たったとき。
 - ・後衛競技者がアタックラインを越えてアタックしたとき。
 - ・ボールへの接触が2回以内で相手コートに返ったとき。
 - ・ボールへの接触が6回以上になったとき。
 - ・サーブを打つ瞬間にサービスラインまたはサイドラインを踏んだり、踏み越したりしたとき。
 - ・プレー中に相手競技者のプレーを妨害したとき。
 - ・故意にプレーを遅らせたり、ボールを蹴る、ネットにぶら下がるなどフェアプレーの精神に反する競技者行動をしたとき。
 - ・相手コートにボールを返す際にネット上を通過しなかったとき。